

おもてなし隊

伝統的な鎧や衣装を身にまとったキャラクターたちは、松本城のおもてなし隊の一員だ。おもてなしとは、お客様を歓待することで、歴史上の人物たちがお客様をお迎えし、お城を盛り上げてくれる。

石川数正

石川数正（1593 年没）は松本城の初代城主で、松本城の最も古い 3 つの郭、大天守、乾櫓、屋根付通しの築城に携わった人物である。

石川は、戦国時代（1467-1568）と呼ばれる数十年にわたる争いの時代に活躍した多くの武将の一人であった。のちに徳川幕府を開くことになる徳川家康（1543-1616）の長年の盟友であった。しかし、1585 年、石川は突然、家康のライバルである豊臣秀吉（1537-1598）に忠誠を誓い、豊臣秀吉のもとに加わった。1590 年、秀吉は石川に松本城を与えたが、石川は数年後、秀吉の朝鮮半島への侵略失敗の最中に死去した。

小笠原秀政と徳姫

小笠原秀政（1569-1615）は、1613 年から 1617 年にかけて松本城を治めた小笠原家の二人のうちの一人である。

小笠原家は、徳川将軍家の初代・徳川家康から城の支配権を与えられた。家康は石川数正を裏切り者として松本城から追い出し（前述）、秀政に城を与えた。これは小笠原家にとっての里帰りである。小笠原家は石川家が来る前からこの地を治めており、"松本"という名前をつけたのも彼らである。

徳姫（1576-1607）は、秀政の妻である。武将が結婚を機に同盟を結んだり、忠誠心を示したりすることはよくあることである。徳姫の父親は家康の長男、母親は織田信長（1534-1582）の長女だった。秀政との結婚は豊臣秀吉が仲介したもので、信長、秀吉、家康の三大武将が政略結婚を行ったことがわかる。

松平直政

松平直政（1601-1666）は、唯一の松平氏による松本城主である。松平直政は、辰巳附櫓と月見櫓を増築し、城の規模を拡大した。

徳川幕府（1603-1867）の時代には、大名による城の拡張は許されず、修理には幕府の認可が必要であった。松平は家康の孫にあたり、松本城の拡張を特別に許可されたのであろう。1638 年、松平は松江城（現・島根県）に移封された。

芥川九郎左衛門

城内に忍び込む忍者、芥川九郎左衛門の姿を見かけることがあるかもしれない。「九郎左衛門」は一個人の名前ではなく、甲賀流忍術の名家である芥川家に代々伝わる世襲の名前である。

1617 年から 1633 年、および 1726 年から 1869 年まで松本城主であった戸田家に仕えた忍者たちが、代々「芥川九郎左衛門」と名乗った。5 代目の芥川義矩（1732-1810）は、特に戦闘能力に優れていた。ある晩、義矩が薪を割っていると、刺客が忍び込んだという伝説がある。義矩が薪を割ろうと斧を振りかざすと、その動作によって刺客の右腕が切断されてしまったという。